

がくしゅうかだい（1ねんせい）



【こくご】おうちのひととけいかくをたててがくしゅうをしていきましょう。

<べんきょうすること>

◆きょうかしよ 68～77ページ「おおきな かぶ」をがくしゅうします。

(1)おじいさんのやくになって、げきあそびをやってみます。

68～69 ページに でてくる おじいさんになったつもりで、かんたん な うごきをつけて おんどくしてみましよう。

つぎのばめんで うごきをつけて、よんでみましよう

○68 ページ たねを まいているとき

○69 ページ かぶを ぬこうとしているとき

※ちょうせんできるひとは、「 」(かぎ)の ことばいがいに、せりふを、つけたしてみましよう。

(2)げきあそびをほかのページでもやってみましよう。

○70～71 ページ

○72～73 ページ2ぎょうめ

○73 ページ3ぎょうめ～74 ページ6ぎょうめ

○74 ページうしろから3ぎょうめ～76 ページ

①やくをきめて、おんどくをします。

②やくにあったうごきをかながえたあと、うごきをつけて よみます。

③ちょうせんできるひとは、「 」(かぎ)のことばいがいに、せりふを つけたしてみましよう。



◆80～81 ページ「『は』『を』『へ』をつかおう」をがくしゅうします。

(1)80 ページをおんどくします。

※とまらずに よむことができるように くりかえしよみましよう。

(2)81 ページのぶんを よみます。よんだあとに、のーとやとりくみしーとにうつつします。

(3)「は」「を」「へ」をつかったぶんをつくって、のーとやとりくみしーとにかきます。

は、 を 。

は、 へ 。

れい わたし は、 は を みがく。

おじいさん は、 えき へ いく。

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします

- ・「おおきなかぶ」の学習では、やくにあったうごきやセリフを考えて読んでいる姿を大いに認めてあげてください。
- ・「は」と「わ」の使い分け等は、文を書く経験を通して身に付けていきます。

【さんすう】

「※」はべんきょうするときの せんせいからの アドバイスです。

<学習内容>

◆「のこりはいくつ」（きょうかしよ 61～63 ページ）

なんにん いるでしょう？
おはなしの とおりに ブロックをおいて うごかしてみよう

(1) 8にんで キャンプに きました。



※わくのなかに ブロックをおきます。

(2) その うち 3にんが
おとなです。



※おとなのかずのブロックを えんぴつでかこもう。

(3) こどもは にんです。



おはなしに あわせて
ブロックを うごかすことが できるかな？

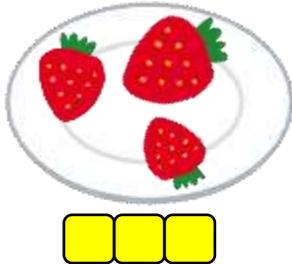
8あって おとなの3をとると、のこりは こどもに なります。
これを しき であらわすと…

しき $8 - 3 = 5$
8ひく3 は 5

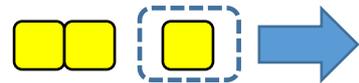
こたえ **5** にん

それぞれ のこりは なんこでしょう。
しかくに すうじを いれましょう。

はじめにいちごが3こあります。

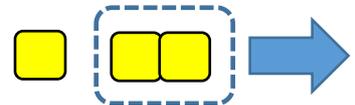


1こたべると…



① $\square - \square = \square$

2こたべると…



② $\square - \square = \square$

たべないと…



③ $\square - \square = \square$

保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

◆のこりはいくつ（教科書 P61～63）

・ひき算の学習が進んでくると、計算して答えを求めることはできるようになってきますが、「問題場面」と「ひかれる数」や「答え」の関係に目を向けることは、とても難しいことです。もし①と②を見て、「答え」と「赤で囲んだ数字」が反対になっていることに気付いたら、式の関係性に注目しているということです。